

『3つの助け』で災害に強いまちづくり

特集 『3つの助け』で災害に強いまちづくり



総務防災課 小杉太志主事

ハザードマップには、家庭での防災対策などが掲載されています。ぜひ、家庭での話し合いに活用するなど、災害への備えに役立てましょう。総務防災課や総合支所、公民館で配布しています。

また、避難所には徒歩や自動車など、どのような手段で行くことができるのか、小さな子どもやお年寄りなどと一緒に避難する場合など、人によって避難する状況はさまざまです。このように事前にさまざまな状況を想定し、「こんな時はどう行動したらよいか」ということを具体的に話し合い、周りの人たちと情報共有することも大切

ここもチェック!

★備蓄食品を使ったレシピ★

今月号の『今日のごはんは明日のげんき!』(最終ページに掲載)では、備蓄食品の保管方法や、備蓄食品を使ったレシピを掲載しています。ぜひ併せてご覧ください。

災害時などの情報入手方法は?

防災行政無線、テレホンサービス(☎0180-99-4431)、ホームページ、ツイッター、メール配信サービス、テレビ(データ放送)など、さまざまな方法で情報を入手できます。

ハザードマップには、情報の入手方法を掲載しています。いざという時にすぐに使えるよう、あらかじめ確認しておきましょう。



▲メール配信サービスのイメージ

メール配信サービスの登録はこちらから!



▲QRコードを読み取り、空メールを送信してください

自助

自分で自分の命を守る

自分で自分の命を守る『自助』の取り組みは、日頃のちょっとした心掛けで誰でもできます。

例えば、避難所やそこまでの行き方などを家族や周りの人たちと話し合うこともその一つです。市内の避難所は平成26年3月に配布した『ハザードマップ』や、市ホームページなどで確認することができます。



その時あなたは どう避難しますか

例えば、自宅から避難する場合と、学校や勤務先などから避難する場合は、避難所が異なります。

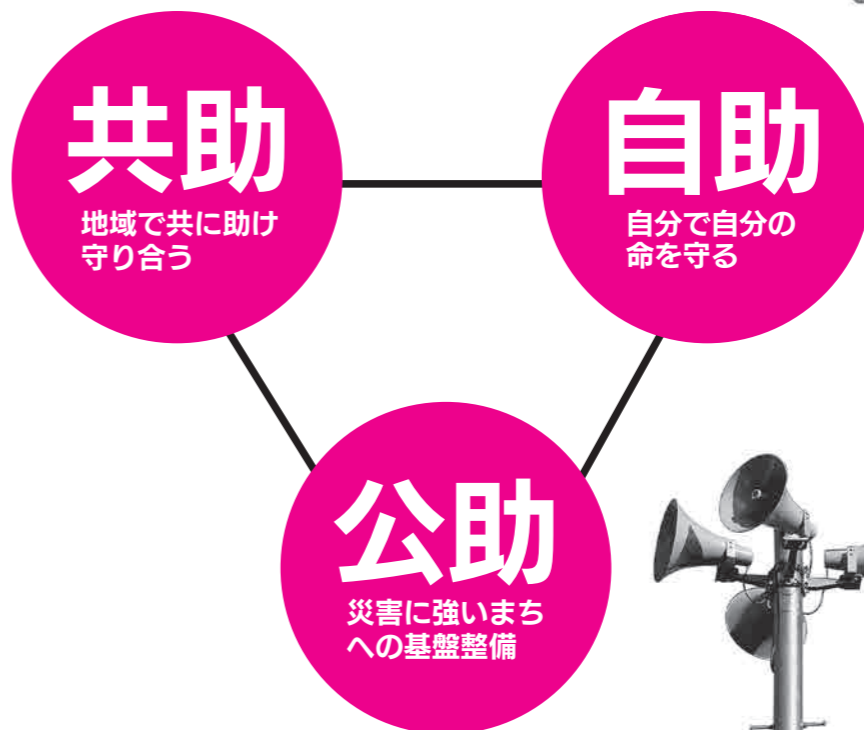
また、避難所には徒歩や自動車など、どのような手段で行くことができるのか、小さな子どもやお年寄りなどと一緒に避難する場合など、人によって避難する状況はさまざまです。

あらかじめ『ちょっとした心掛け』を積み重ねていくことで、自分だけでなく多くの命を救うことができます。

頼りになるのは地域の力!



備蓄品の一例



防災行政無線の整備

『3つの助け』で命を守る!

平成23年3月11日に発生した東日本大震災から5年。あの災害から、私たちは防災に対する多くの教訓を得ました。しかし、時間の経過と共に、そのことを忘れかけていませんか。災害は、いつ襲ってくるかわかりません。その時に必要なことは何か。どう行動すればよいか。いざというとき、自分と大切な人の命を救うために、日頃からできることはたくさんあります。今、改めて『3つの助け』というキーワードから『命を守る災害への備え』について、家族や周りの人たちと共に、考えてみませんか。

共助

地域で共に助け守り合う

自助と共に、地域で共に助け合う『共助』の取り組みも、災害に強いまちづくりには欠かせません。いざという時、まず頼りになるのは地域の人たちです。今回は、自治会などで結成される『自主防災組織』と、地域防災を担う『消防団』の活動を紹介します。



岡里自主防災会
会長 工藤正春さん

自主防災組織

岡里自主防災会では、1月に防災訓練を行い、AED（自動体外式除細動器）や消火器の使い方、火のついた天ぷら油の消火方法を、消防職員や地元の消防団の方々に教わりました。

普段、油に燃え移った火を消火したり、消火器を使うことなんてあまり無いですよ。だからこそ、こうした訓練で定期的に体験しておくことが大切だと思うのです。岡里地区は住宅が密集しているので、火災には特に注意しています。地域の特徴に合った訓練ができるのも、自主防災会ならではの強みです。



▲防災訓練で消火器の使い方を学ぶ（岡里自主防災会提供）



深谷市消防団第8分団
分団長 柿澤祐介さん

消防団

私たちは火災などの災害現場での活動のほかに、地域防災力の強化に向けた取り組みを行っています。

その1つが子どもたちへの防災教育です。地域のお祭りでの放水体験や小・中学生への防災訓練などを通して防災を身近に感じてもらい、未来の地域防災を担う人材を育てています。



▲自治会のお祭りでの子どもの放水体験（第8分団提供）

万が一の時に頼れるのは、やはりその地域の人たちなんです。だからこそ、大人だけでなく子どもたちにも『自分が地域の中で助ける人になれる』と思ってもらいたいです。

自主防災組織や消防団は『共助の要』

活動には地域住民の積極的な参加と協力が不可欠です！

自主防災組織結成の相談は総務防災課（☎574 - 6635）へご連絡ください。また、消防団員も随時募集しています。お気軽に消防総務課（☎571 - 0900）へお問い合わせください。

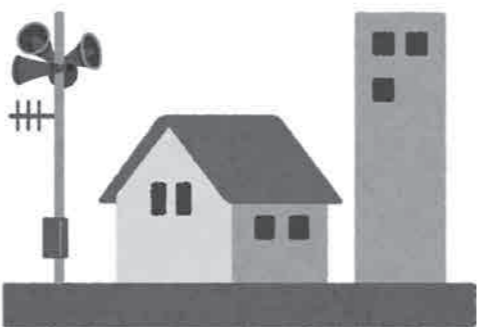


▲総合防災訓練では、自主防災組織と消防団が協力して訓練を実施

公助

災害に強いまちへの基盤整備

市では、東日本大震災をはじめとする大規模災害の教訓を踏まえ、災害に強いまちづくりに必要なさまざまな取り組みを行っています。例えば、公共施設の耐震化や『公助』の拠点となる市役所庁舎の建て替え、緊急時の情報伝達手段となる防災行政無線の整備など、災害に強いまちへの基盤整備のほか、総合防災訓練の実施やハザードマップの配布など、市民の自助・共助を支える取り組みも行っています。



公助の拠点

それが市役所庁舎

公助は、災害発生直後からその後の復興まで、長期間にわたる必要となります。その拠点と

なるのが『市役所庁舎』です。しかし、現在の深谷市役所本庁舎は建設から49年が経過し、老朽化に加え、防災拠点に必要とされる耐震性能が著しく低い状況です。



各種災害に対応！
高規格救急自動車

高規格救急自動車は、最新の救急資器材を装備し、救急救命士による高度な処置が行える救急自動車です。市内に8台配備され、各種災害に対応できるよう備えています。問い合わせ 警防課（☎571 - 0914）



▲2月に更新した花園消防署配備の高規格救急自動車内部

東日本大震災で福島県須賀川市では、築45年の市役所庁舎に大きな被害を受け、市の業務を停止せざるを得ない状況となりました。そのため復旧作業は困難を極め、その後も長く市民生活に多大な影響を与えました。市ではこのような被害を教訓に、市役所庁舎の建て替えを決定し、災害が起こった際にも市役所庁舎が公助の拠点として機能し、広く市民生活を守るよう努めます。



▲現在の市役所本庁舎

公助だけでは実現できない！
災害に強いまちづくり

災害に強いまちづくりは決して『公助』だけでは実現できません。『3つの助け』がそれぞれ役割を果たし、協力し合うことが必要です。

その中でも、とりわけ重要になるのが『自助』と『共助』の力です。

災害の規模が大きくなり、被害の範囲が大きくなり、行政による『公助』が行き届くまでには、どうしても時間が掛かります。多くの命を救うためには、公助を待つ間、まずは自分で自分の命を守り、その上で地域住民が協力し、災害を拡大させないことが大切です。自分と大切な人を守るため、ぜひ今すぐに、災害に対する備えを確認してください。